

OKAZAKI COMMUNITY SPORTS MAGAZINE

スポーツ推進だより

令和 2年 3月 No.136



第20回岡崎市スローピッチソフトボール交歓会 (01.11.3)

スポーツ推進だより 目次

第20回岡崎市スローピッチソフトボール交歓会	2~3
西三河地区スポーツ推進委員実技研修会	4
第60回全国スポーツ推進委員研究協議会	5
額田ブロック研修会	6
Area report (矢作東学区)	7
第67回東海四県スポーツ推進委員研究大会	8

岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会

第20回 岡崎市

スローピッチソフトボール交歓会

令和元年 11月3日(日) 岡崎中央総合公園球技場

豊富学区 村上 伸一

令和元年11月3日(日)に雨天中止により3年ぶりとなる大会が快晴のもと開催されました。各地域の代表チームがA、Bブロックにわかれ予選リーグで総当たりし、その後、各リーグ上位2チームにより決勝トーナメントを戦いました。新競技移行により今回の交歓会が最終回となった事もあり、白熱しつつもユーモアに溢れた名勝負が繰り広げられました。

スローピッチソフトボールとは

- 主にソフトボール
- ボールは14インチ(グレープフルーツ程度の大きさ)
- 投球は山なりのゆっくりした球である事
- 盗塁禁止
- バント禁止、チョップ打法禁止



プレイ インプレッション

プレイしてみるとよく分かりますが、野球経験者であってもボールの大きさと柔らかさに対応するのに非常に手こずり、しかしそれこそが醍醐味であり、真剣さとユーモアを生み出します。打っても飛ばない、飛んだら凄い! 飛んで来たらキャッチできないのが普通であり、フライをキャッチ出来ただけでも大歓声! ただし、欠点があれば利点もあり、例えばポテポテの打撃であっても投球が思うようにいかない分、進塁は容易でもあります。



決勝トーナメントともなると『流石!』と感嘆する好プレイの連続で観戦しても楽しいです。

予選リーグ

Aリーグ

	矢作	額田	中央第一	中央第二	勝敗	順位
矢作		23-0	8-0		2勝0敗 総失点0 総得点31	1位
額田	0-23			1-1	0勝1敗 総失点24 総得点1	4位
中央第一	0-8			8-4	1勝1敗 総失点0 総得点31	2位
中央第二		1-1	4-8		1勝1敗 総失点12 総得点8	3位

Bリーグ

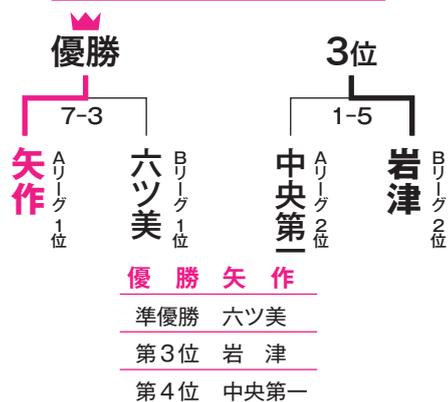
	六ツ美	岡崎	大平	岩津	東部	勝敗	順位
六ツ美		11-1			16-2	2勝0敗 総失点3 総得点27	1位
岡崎	1-11		6-3			1勝1敗 総失点14 総得点7	3位
大平			3-6	0-10		0勝2敗 総失点16 総得点3	4位
岩津			10-0		8-3	2勝0敗 総失点3 総得点18	2位
東部	2-16			3-8		0勝2敗 総失点24 総得点5	5位

決勝トーナメント

準優勝 岩津ブロック



決勝トーナメント結果



優勝 矢作ブロック



過去2回とも3位で今回こそはと挑んだ雪辱戦。悲願の初優勝を果たした。

令和元年度

西三河地区スポーツ推進委員実技研修会に参加して

常磐学区 赤井 達也

令和元年11月9日（土）、安城市スポーツ推進委員連絡協議会の主管により、東祥アリーナ（安城市体育館）にて「西三河地区スポーツ推進委員実技研修会」が開催されました。

本研修会の目的は、スポーツ推進委員が生涯スポーツの推進者・指導者として、地域の期待に応じるため、実技指導方法の研修を通して資質の向上を図ることです。岡崎市の30名を含め、西三河地区のスポーツ推進委員約200名が参加し、ミニテニス、ポッチャ、ラジオ体操第三を実技体験しました。また、西三河地区スポーツ推進委員5年・15年表彰も行われ、5年表彰を本田誠さん（男川）、鈴木克典さん（連尺）、15年表彰を柴田成夫さん（夏山）が受賞されました。おめでとうございます！私はポッチャとラジオ体操第三を実技体験しましたのでその2種目について紹介します。



ポッチャ

重度の脳性麻痺や四肢に障がいがある人のためにヨーロッパで考案されたスポーツで1988年のソウル・パラリンピック競技大会で正式競技となりました。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールにどれだけ多くのボールを近づけられるかを2チームで競うスポーツです。障がいによりボールを投げることができなくても勾配具を使用し、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。

今回の体験では、障がいのある人を想定し、実際に車椅子に乗って投げたり、勾配具を使用して行いましたが、ポッチャを競技する上では何らハンデになるものではありませんでしたし、メンバーとの作戦会議など会話が大変盛り上がり、全員が平等に楽しく参加できるスポーツであることがわかりました。年齢も関係なく競い合うことができるので、地域の幅広い方々参加して行うことができるスポーツの一つとして魅力的だと感じました。



ラジオ体操第三

安城市はラジオ体操が盛んで、周年行事や新しい施設のこけら落としなどの大きなイベントでは必ずラジオ体操を行う文化があり、今回の体験種目であるラジオ体操第三についても安城市スポーツ推進委員の諸活動の中で積極的に取り入れているそうです。実際に体験してみると、第一・第二と比べてテンポが速く、負荷も高いため、やっている間に汗ばんできて、半そでになる人が多数いました。テンポが速く、少し複雑なので動作を覚えるのに苦労しそうですが、体操によって適度に汗をかきたい人にはおすすめしたいスポーツでした。



本研修会でまだ知らない魅力的なスポーツがあることを知り、自分の地域に適したスポーツを発掘、展開していくことの必要性を学びました。また、安城市のスポーツ推進委員の方の実技指導方法もわかりやすく勉強になりました。今後の自分自身の活動に活かしていきたいと思います。

第60回 全国スポーツ推進委員研究協議会

期 日：令和元年11月14日（木）～15日（金）

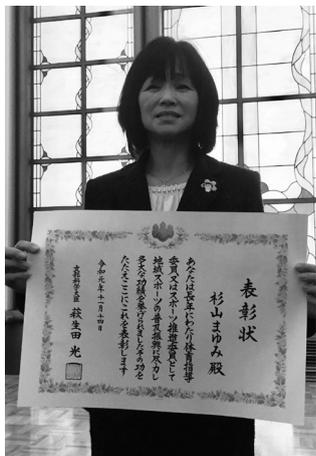
会 場：三重県津市 産業・スポーツセンター サオリーナ 三重県総合文化センター

本宿学区 畔柳 稔

大会会場の「サオリーナ」は、「霊長類最強女子」の異名を持つレスリングの吉田沙保里さんが名付け親の屋内総合スポーツ施設です。開会式に続き行われた表彰式では、杉山会長がスポーツ推進委員功労者として、文部科学大臣表彰を受賞されました。全国で85名、愛知県で4名という名誉な受賞です。その後の講演会では、元マラソン選手で、現在は横浜DeNAランニングクラブ エグゼクティブアドバイザーの瀬古利彦さんが「心で走る」と題し、現役時代の話から、MGC（マラソングランドチャンピオンシップ）の仕組み作り、テレビではなかなか話せない東京オリンピックマラソン会場変更の舞台裏という、旬のネタまでユーモアたっぷりにお話頂き、笑っぱなしのあつという間の80分でした。

大会テーマは「『スポーツ・イン・ライフを目指して』～とこわか（常若）な社会の実現に向けて～」です。子供から高齢者まで、日常生活の中で自然にスポーツに親しむ「スポーツ・イン・ライフ」を実践する事によって、自らの健康増進・健康寿命の延伸を図り、いつまでも若々しく元気なとこわか（常若）な社会を実現していく事が期待されます。その中で、地域スポーツのコーディネーターとして、スポーツ推進委員が果たすべき役割や活動の方向性について、4つの分科会で研究協議が行われました。

岡崎市は第1分科会の「『スポーツを通じた地域活性化』～地域の特性を活かした取組による活力ある地域社会の実現を目指して～」に参加し、3団体の事例発表を聴講しました。長野の総合型地域スポーツクラブの事例では、市や外部団体と共に地域の問題解決に取り組む事により、独自の立ち位置を確立した事を教えて頂きました。NPO法人掛川市体育協会の事例では、スポーツクラブ運営で指導者の確保・育成が課題として上がる中、地元大学へ講師派遣を依頼して謝礼金や必要経費を大学側へ支払う事で、WIN・WINの関係を築けた成功例の報告が印象に残りました。一般財団法人志摩スポーツコミッションからは、地域自治会や小中学校を巻き込み、地域に密着した魅力あるイベント開催で、経済効果を上げ地域活性化に貢献した事例の紹介がありました。最後に、今回の研究協議会に参加し学んだ事を、今後の活動に活かしていきたいと思えます。



文部科学大臣表彰受賞

この度は、文部科学大臣表彰の栄誉を賜り身に余る光栄でございます。私にとってこの表彰はこれまでを振り返る良い機会ともなりました。これまで多くの先輩方、同志の皆様にお支え頂き今日があります。これからも感謝の気持ちを忘れることなく精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

会長 杉山 まゆみ



額田ブロック研修会

形埜学区 鈴木 喜生

令和元年12月8日（日）に額田ブロック（豊富学区、夏山学区、宮崎学区、形埜学区、下山学区）研修会が豊富小学校体育館及び運動場にて開催され、地元の豊富小学校の親子連れを始め、各学区から多くの参加者が集まりました。

当日は、晴天にもかかわらず気温が低く体育館内はひんやりとしていましたが運動場は風がなく太陽の日差しでぽかぽかと暖かさを感じる陽気でした。今回の研修では、ニュースポーツ体験として、ファミリーバドミントンとナンバークップの2種目を前半と後半で2つのグループに分かれて、それぞれ体育館と運動場で取り組んでもらいました。



ファミリーバドミントン Family Badminton

ファミリーバドミントンでは、ルール説明の後、研修部の方によるデモンストレーションを行いながら、ルール詳細を分かり易く解説し、その後参加者の皆さんに実践でプレーしてもらいました。実際にプレーしてみると、普通のバドミントンと違い、ラケットが短いことやシャトルの先にスポンジボールが付いていること、またスマッシュが禁止されていることから初めての人でもラリーが続いていました。参加した小学生からは、「サーブを相手コートに決まったエリアに入れるのが難しかったけど、とても楽しかった。学校の体育の授業でもやってほしい。」との声が聞かれました。



ナンバークップ

ナンバークップは、運動場にて研修部の方によるデモンストレーションを交えながらのルール解説の後、実戦でプレーしてもらいました。参加者から、「ボーリングとすごろくと算数を組み合わせたような不思議なゲームでとても楽しかった。特に、チーム戦なので、勝利の一投を決めた瞬間はみんなで大いに盛り上がりました。」との声や、「子どもからお年寄りまで一緒に楽しめるスポーツで、せひ学区のレクリエーションに取り入れてやってみたい。」との嬉しいお言葉もいただきました。

今回、参加していただいた皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



AREA REPORT

学区紹介

篠田 和城

スポーツを通じて楽しく、仲良く、明るい!

矢作東学区スポーツ行事

- 5月 スローピッチソフトボール大会
- 6月 ソフトミニバレーボール大会 (女性)
- 8月 グラウンドゴルフ大会
- 10月 矢作ブロック スローピッチソフトボール大会
市民体育祭
学区民大運動会
- 12月 学区内ウォークラリー
- 1月 ソフトミニバレーボール大会 (男女混成)



豊かな水をたたえ悠々と流れる矢作川。その中流に位置する矢作の地は古来の歴史と文化を数多く受け継ぐ古式ゆかしい街。矢作東学区は、国道1号沿いに広がり古くは宿場町として栄えていた。勝蓮寺の市指定文化財の貴重な絵画や、矢作神社に残る貴重な絵図、例祭の再に興き回す豪華な山車の彫り物や装飾は見事で見応えがあります。是非遊びにいらして下さい。

矢作東学区では、7町区が参加し、毎年6行事を実施しています。(上記記載) 地域選出のスポーツ委員さん、社教委員と共に学区民がスポーツを通じ、出会い・ふれあい、心身の健全な育成に寄与できるよう活動しています。なかでも紹介したいのは、毎年10月に行われる学区民大運動会。矢作東学区では小学校の運動会と合同ではなく、社教主催で行う学区民大運動会。玉入れ、綱引きなどの得点競技の他に、子供から大人まで参加しやすい楽しいゲームも取り入れています。クライマックスは、児童～40歳以上男子までの男女計17名の精鋭を集めた年齢別町・区対抗リレーです。応援の皆さんも大きな声援で盛大に盛りあげます。5月のレクリエーション大会では、今年度まではスローピッチソフトボール大会を行っていましたが、来年度新たな取り組みとして岡崎市が推進するファミリーバドミントンを行います。ふれあい行事では、「誰もが楽しく親しみやすいニュースポーツ！」デイスゲッター、ニチレクボール、ペタンクに加え新たにナンバーカップを取り入れ、少しでも多くの方がスポーツに親しめる環境づくりに貢献していきたいと思っています。



第67回東海四県スポーツ推進委員研究大会に参加して

竜谷学区 小坂 貴志

令和2年2月24日（金）・25（土）に、第67回東海四県スポーツ推進委員研究大会静岡大会が、2000名以上の参加のもと浜松市で開催され、岡崎市は26名で参加しました。私がスポーツ推進委員研究大会に参加したきっかけは、藤川学区の倉田さんから一緒に参加するぞ！と声をかけてくれたことでした。1日目の会場（浜松アリーナ）に入るとそれぞれの市のユニホームを着用した人に目を奪われながらスポーツ推進に関わる人がこんなに大勢いるのだなと実際に見て感じとることができました。



いよいよ開会式です。開会の言葉として、静岡県スポーツ推進委員連絡協議会副会長の田畑様の「やるまいか」の開会あいさつのもと大会のはじまりです。「やるまいか」＝「やってやろうじゃないか」の意気込みのなか静岡県立浜松東高等学校ダンス部の表現力豊かなダンスや“カッコイイ”ダンスで会場が笑顔と感動につつまれました。続いての講演は、講師の大棟耕介氏による「幅広い世代にスポーツを普及させるためのクラウン流コミュニケーション術」でした。講演会を聴講して、ある時にはその場にある椅子や脚立を頭の上に乗せてしまうバランス芸などのパフォーマンスで観客を惹き付けたり、みんなを笑顔にするために笑

いで空気を変えたり、その人を主役にもちあげるコミュニケーション能力であったり、講演会自体が人を惹きつけるものでした。私たちスポーツ推進委員の役割も、選手と私たちスポーツ推進委員が一体となり空気を変えたり空気をつくることであり、それによって笑顔が生まれ、スポーツの普及につながると感じました。2日目は3会場に分かれて研究発表が行われました。岡崎市は、THE HAMANAKO（浜松市）の会場で沼津市と静岡市の研究発表会を聴講しました。沼津市では、週一回以上のスポーツ実施率が29%（全国平均55%）という現状があります。きっかけづくりとしてeスポーツを考案したり、親子でスポーツに触れる活動や市民に好きなスポーツを見つけてもらうための活動として、ニュースポーツの紹介（吹矢・ダーツ・スラックライン等）をすることで2年前は400人であった参加人数が現在は1600人になりました。市民にスポーツを紹介することで、好きなスポーツをコーディネートしてあげたい想いがつまった活動であると感じました。静岡市では、「市民一人1スポーツ」を達成させるために、組織やスポーツ推進委員の力を高める活動やニュースポーツ紹介（ディスコン・スカイクロス等）があり、なかでもニュースポーツ体験会のPRチラシ作成など熱のこもった活動紹介がありました。静岡市の「市民一人1スポーツ」を達成させるために熱い想いがつまった活動であると感じました。

今回参加して、たくさんの方と出会い学ぶことも多くとても充実した2日間を過ごすことができました。今後もスポーツを通じてみんなが笑顔になれる活動ができたらと思います。



発行 ● 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会
編集 ● 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会広報部
事務局 ● 岡崎市社会文化部スポーツ振興課（TEL23-6363）
ホームページ ● <http://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1556/281500/p021076.html>

